

【参考資料】 平成21年度 実績報告(可茂森林組合)

作成日:平成22年4月30日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	38.15	38.15	100%	H22予定:63.61ha	人工林:施業同意レベル 天然林:長期受委託レベル
いつ	4月~6月	4月~6月	/	通年で対応するが、主に4月~6月までとする。	
誰が	佐藤	佐藤			
どういった方法で	個別訪問(多数) 地区座談会(2回)	個別訪問(多数)			
				佐藤	
				地域施業提案会を実施する。今後2年分の施業集約化を今年度実施する。	

下刈・除伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	2	0	0%	H22予定:2ha	
いつ	7月~9月	-	/	7月~9月	
誰が	小池	小池			
どういった方法で	事業区域内で実施が必要な箇所があれば実施	事業区域内で実施が必要な箇所があれば実施			
				事業区域内で実施が必要な箇所があれば実施。未整備林予備軍は早期に対処	

間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	利用:33.66ha	利用:14.97ha	44.5%	H22予定:36.69ha	
	切捨:10.46ha	切捨:10.41ha	99.5%	H22予定:18.89ha	
いつ	1月~3月	4月~3月	/	4月~3月	
誰が	小池・佐藤	小池・佐藤			
どういった方法で	作業路及び作業道から20m以内の間伐材のみ搬出	作業路及び作業道から20m以内の間伐材を主に搬出			
				昨年度の箇所を引き続き実施するとともに、来年度に新規団地を移る。	平成21年に導入したグラブ(0.50㎡)とグラブスイングヤーダ(0.25㎡)による利用間伐を実施する。

作業道(路)開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	W=3.0m,L=2,000m	W=3.0m,L=3,250m	162.5%	H22予定:2,100m(2級造林作業路) :3,000m(3級造林作業路もしくは緊急管理路)	開設費 W=3.0m 3,100円/m W=3.0m 4,300円/m
	W=3.6m,L=3,000m	W=3.0m,3,530m	117.7%		
いつ	7~3月	4~3月	/	通年(梅雨、降雪時を除く)開設 可茂森林組合森林技術者	
誰が	可茂森林組合森林技術者	可茂森林組合森林技術者			
どういった方法で	設計・施工・管理:森林組合直営	設計・施工・管理:森林組合直営			
				来年度よりモデル団地内の別の箇所に移動する。基盤となる幹線作業路を開設する。	2年間の実践経験と研修会で実際に見た技術や低コストで災害に強いと言われている四万十式の作業路開設方法を参考に、地域や実情に沿った手法を考え実践する。

素材生産		新規チーム設立(H20)		内容	
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)				伐倒:チェンソー → 木寄:グラブ(0.50)もしくはスイングヤーダグラブ(0.25) → 玉切造材:プロセッサ「リース」もしくはチェンソー → 積込:(再掲)グラブ(0.50)もしくはスイングヤーダグラブ(0.25)【フォワーダ「リース」による運搬の場合もあり】 → トラック(6t)	
素材生産チーム数(チーム員数)		実施前 → 実施後		1チーム(4人/班)	1チーム(4人/班)
実稼働日数(日)		(H20) (H21)	70	→	90
素材生産コスト(㎡/人・日)			2.3		2.9
素材生産費(円/㎡)		H21計画(実績)	車両系:8,900(11,582)円/㎡		
年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	今後の対応
モデル団地内	1,116	1,047	93.8%	森プロのみ (上記の素材生産システム)	利用間伐をどのように行い、事業地をどう確保するかを要検討するとともに、生産費の計画と実績の差を分析する必要がある。
モデル団地外	884	538	60.9%		
合計	2,000	1,585	79.3%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み					
計画	実績		達成度検証方法	今後の対応	
森林施業プランナーの育成(1名)	平成20年度森林施業プランナー育成研修出席		施業提案書の活用(人数)	より詳細な作業コストを算出し施業提案書を平成24年までに完成させる。	
100年の森づくり施業指針に基づく木材生産林への転換(未整備林から木材生産林へ)	岐阜県森林研究所の協力を得て試験地を設置(平成20年度事業箇所と平成21年度事業箇所)		100年の森づくり施業指針に基づく直径成長の調査 未整備林から木材生産林への転換(ha、採算性など)	試験地を今後も設置し様々な方法で事業を実施。未整備林からの木材生産林の転換に向け森林研究所の協力を得ながら実施	
プロジェクトの実施状況の報告及び普及啓発	林業推進委員会(8回)市町村森林管理協議会(5回)及び組合だよりにて組合員に普及		各委員会等での状況報告(回数)	今後同様に各種委員会にて状況を報告 地域住民へのアンケート(H24年実施予定)	
森林管理情報システムの構築	間伐を実施した箇所はデータベース化(25ha)		間伐実施面積	間伐を実施した箇所とともに作業路の路線も含め、森林全域でのデータベース化を目標とする	
地域内の産直住宅関連業者への供給	H21実績なし(産直住宅関連企業には木材の情報提供は行った。)		木材の直送実績値(㎡、削減コストなど)	地域内の産直住宅関連企業のニーズを調査し、積極的に情報収集を行う。平成24年までに原木を直送	